

F A X 通信

2022年10月1日発行 No.03-103 From KOTANI

ホームページ <http://www.kotanikk.com>

新シール概論（2）シールについて（6）（特別号）

シールの選定について、述べましたが、まだ幾分か説明したいことがあります。

カルテのようなものを作成して、漏れなく仕様を記載の上、シールメーカーとの打ち合わせとなりますが、特に新規な製品で、機密事項もある場合には、秘密保持契約などを交わす必要がある場合があります。

開発品となりますと提案されたシールで、特許が取れるケースもあり、そのあたりに注意が必要です。

この場合には一般的には、両者が当事者となり、共同提案で行うのが多いようです。

また開発には、種々の試作や実験も伴う場合には、その費用についても事前に両者で打ち合わせが必要です。

過去の話ではありますが、これらの開発には相当時間を費やすこともあり、シールメーカーでは開発品目として取り上げ、研究費を計上して実施することもあります。

このようにして、新製品が生まれることが多い。

その他、シールメーカーでは各社で新規にカタログアイテムになるようなシール製品を開発して、事業化する場合も多くあります。このあたりになりますと、その会社の実力が物言うことになります。

簡単に述べましたが、実は大変な事項で、開発に費用も時間もとりますので、各社は研究開発費を別に計上して取り組むことになります。

シールの規格について、少し述べておきます。規格の誕生には相当の時間の経過が必要で、次のようなステップを踏むことになります。

1段目にはある会社で、新規のシール製品が先ほど述べましたような経過で誕生しますと、その会社はカタログアイテムとして市場に出します。

2段目にはその製品が市場で受け入れられて、認知される。画期的な製品であるほど、認知度が向上して、その価値が生まれてきます。

3段目には、その業界の工業会で工業規格として、審議されて、その製品の規格が作成されます。

4段目には、工業会規格が国の規格（JIS）化する価値があるとすれば、審議されてJISの誕生となります。

最終段目には、その国の規格から世界の規格（ISO）として取り上げることになります。

このように、企業規格（カタログアイテム品）から、工業会規格を経て、国の規格へ最終的には世界規格になることもあり得ます。

このようなシール製品が出てくることを多く望みます。

次回には、もう少しシールに関する規格について説明したいと思っています。

どうしても、このシールの狭い世界で、案外、多くの規格があります。やはり、長い歴史の中で、関係者のたゆまぬ努力があったのです。

今後の予定では、あと2回ほど、シールの諸説を述べた後、総まとめの新しいシリーズを取り上げたいと思っています。

（続く）

取扱い製品について

NK リング：ふっ素ゴムをふっ素樹脂で被覆した画期的なOリング

コードリング：英国 NES 社の誇るふっ素ゴムつなぎOリング

TESNIT：スロベニア DONIT TESNIT 社製の高品質ジョイントシート

その他の各種シール製品

以上の詳細はホームページに記載していますので、是非ご覧ください。カタログや技術資料は、ご要望がございましたら下記の本社宛にご一報ください。

コタニ株式会社

本社：神戸市中央区浜辺通 2-1-30

TEL:078-251-5300 FAX:078-251-5307

FAX 通信の記事についてのご意見や質問がございましたら下記の担当者に連絡ください。（担当：根本）